



## 世界史 B 問題

はじめに、これを読みなさい。

1. この問題用紙は 22 ページある。ただし、ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
2. 解答用紙に印刷されている受験番号が正しいかどうか、受験票と照合して確認すること。
3. 監督者の指示にしたがい、解答用紙の氏名欄に氏名を記入すること。
4. 解答は、すべて解答用紙の所定欄にマークするか、または記入すること。所定欄以外のところには何も記入しないこと。
5. 問題に指定された数より多くマークしないこと。
6. 解答は、必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれも HB・黒)で記入のこと。
7. 訂正する場合は、消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
8. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
9. 解答用紙はすべて回収する。持ち帰らず、必ず提出すること。ただし、この問題用紙は、必ず持ち帰ること。
10. 試験時間は 70 分である。
11. マーク記入例

良い例	悪い例
	

〔 I 〕 次の文章をよく読み、問 1 ～ 6 に答えなさい。

世界最大の面積を有するユーラシア大陸の内には、ヨーロッパ・西アジア・南アジア・東アジアや内陸アジアなどの地域世界が存在し、それぞれの地域世界はその独自性ととも相互の交流を通じて発展してきた。このような東西交流において大きな役割を果たしたのが、二つの陸路と一つの海路であった。

一つ目の陸路は、内陸アジア北部を東西に結ぶ交通路であり、騎馬遊牧民が活躍した草原の道である。騎馬の技術を採用し遊牧と結びつけた最初の騎馬遊牧民は、前 6 世紀頃南ロシア草原地帯を支配した  であった。

の騎馬文化を受け入れた草原の民は、騎馬による機動力と武力を持って各地を侵略するようになった。前 3 世紀に強力となった匈奴、4 世紀末に中国で北魏をたてた鮮卑、4 世紀から 5 世紀のヨーロッパに侵入し、ゲルマン人の大移動の直接的な原因となったフン人や、のちのハンガリー人の祖先である  はその例である。武力による騎馬遊牧民の活動は、ときに東西各地の文化圏を脅かしたが、新しい文化の受け入れにも積極的であった彼らは、東西文化の伝播<sup>(1)</sup>の上で大きな役割を果たした。

もう一つの陸路は、地中海東岸からメソポタミアを通過してイラン高原北部に達し、東西トルキスタンから中国にいたるオアシスの道である。この道は、中央アジアの乾燥地帯にあるオアシス諸都市を最短距離で結ぶ交通路であり、ソグド商人による隊商交易がさかんに行なわれた。また、この道を使って多くの宗教者も往来し、4 世紀初めに西域から  が洛陽に来て布教を行ない、東晋の法顕や唐の玄奘らの僧侶がインドに赴いた。アム・シル両河に挟まれたソグディアナ<sup>(2)</sup>の  は、紙工場が建てられるなど、オアシス都市の中継地として大いに栄えた。

一方、地中海から紅海やペルシア湾を通り、アラビア海をわたってインドに達し、さらに東南アジアや中国にいたる海の道<sup>(3)</sup>も古くから存在し、船による交易が活発に行なわれていた。

インドと西方との季節風を利用した交易は、1 世紀頃からギリシア系商人の活

躍によってひらけた。季節風貿易の様子は、1世紀中頃にエジプト在住のギリシア人が著したとされる史料<sup>(4)</sup>に描かれている。8世紀からは、ムスリム商人が海上に進出し、広州や泉州など中国沿岸の海港に出入りするようになった。なかでも、11世紀から15世紀にムスリムの商人グループである  は、紅海を中心にインド洋と地中海を結ぶ交易活動で各地に商館をおいて活躍した。 は、交易を通じて得た利益をモスク・マドラサなどの建設のために注<sup>(5)</sup>いだことでも知られる。

問 1 文中の空欄ア～オに最も適切な語句を解答欄に記入しなさい。

問 2 下線部(1)に関連して、モンゴルにある匈奴の墳墓であるノイン＝ウラ遺跡は漢代の絹織物が出土したことで知られているが、主にソグド商人の仲介で中国と北方遊牧民の間で行なわれた交易は何と呼ばれたか、解答欄に記入しなさい。

問 3 下線部(2)の唐の玄奘が仏教教義を学んだ、5世紀にグプタ朝が造った施設の名前を解答欄に記入しなさい。

問 4 下線部(3)の海の道を通じて9世紀頃から大量に中国から西方に運ばれるようになった交易品の名をとって、この道は何という別称があるか、解答欄に記入しなさい。

問 5 下線部(4)について、当時の航海案内書であり、貿易事情も述べられた史料の名前を解答欄に記入しなさい。

問 6 下線部(5)に関連して、イスラーム社会の町づくりは、商人など富裕者からの財産の寄進によって行なわれたが、イスラーム法に基づく寄付行為は何と呼ばれていたか、解答欄に記入しなさい。

〔Ⅱ〕 次の文章をよく読み、空欄(1～10)に入る語句として最も適切なものを解答欄に記入しなさい。

1929年10月、ニューヨーク株式市場での株価の暴落からアメリカ合衆国がこれまでにない恐慌に見舞われると、やがてそれは全世界に波及し、世界恐慌となった。当時のアメリカ合衆国大統領であった [ 1 ] は、有効な対策を打ち出せず、1933年には民主党のフランクリン＝ローズヴェルトが大統領に就任した。ローズヴェルトは外交では列強諸国の中で最後に [ 2 ] を承認し、ラテンアメリカ諸国には善隣外交政策を行なった。同じ年、ドイツではヒトラーが首相になり、国会議事堂放火事件を利用して共産党など左翼勢力を弾圧し、国会の立法権を奪って政府に移す [ 3 ] を制定した。ナチ党はやがて一党独裁体制をしき、反対派やユダヤ人に対しては秘密警察、親衛隊、突撃隊などを使って取り締まり、弾圧した。この時期、ソ連だけは世界恐慌の影響を受けず、1933年から第二次五カ年計画を進めて経済を発達させた。しかしスターリンは反対派を大量に粛清し、多くの犠牲者を出し、個人崇拜を強めた。

[ 4 ] 大統領が亡くなるとヒトラーは独裁者となり、国内で軍需工業を拡張したり、大規模な土木工事を行なって、失業者を減らしたが、外交では国際連盟を脱退するなど強硬な政策を展開した。1936年にはフランスとソ連が相互援助条約を締結したことを理由にして [ 5 ] を破棄しラインラント進駐を果たした。スペインではやはり1936年に選挙で人民戦線派が勝利し政府を組織したが、軍人のフランコが反乱を起こした。ドイツやイタリアはフランコを支持したが、欧米の知識人は政府側を支持して国際義勇軍を組織した。これには『誰がために鐘は鳴る』を著した [ 6 ] や、『カタロニア賛歌』を残した [ 7 ] など有名な作家も参加していた。

1939年8月にドイツとソ連は突如として不可侵条約を結び、全世界を驚かせたが、この条約にはポーランドの分割と東ヨーロッパでの独ソの勢力圏を定めた [ 8 ] が付けられていた。同年9月、ドイツ軍がポーランドに侵攻すると英仏両国はドイツに宣戦布告し第二次世界大戦が始まった。1940年春になるとドイツ軍は西ヨーロッパに侵攻し、6月にはパリが無血占領されたが、この間、フ

ランスにいた全イギリス軍も [ 9 ] から撤退を余儀なくされた。1941 年になると、6 月にはドイツが不可侵条約を無視してソ連に侵攻し独ソ戦が始まり、ドイツ軍は年末にはモスクワ近郊まで進んだが、ソ連軍はかろうじてそれを押し返すなど激戦が続いた。8 月には、アメリカ合衆国のローズヴェルト大統領とイギリスの [ 10 ] 首相が会談して、大西洋憲章を発表したが、これには後にソ連など 26 カ国が加わり、連合国側の戦後構想の基礎となった。





〔IV〕 次の文章をよく読み、下線部(1)～(10)に関する問1～10に答えなさい。

全ての情報はメディアを通して伝達<sup>(1)</sup>される。そして、その情報は文字化<sup>(2)</sup>され、知識として蓄積されてゆく。それは古代<sup>(3)</sup>から現代まで変わらない。ただし、どの知識が本当に正しいものなのかという根拠づけは、その当時の宗教、思想<sup>(4)</sup>や科学によって行なわれる。さらには、どの宗教や科学を選択するのは、権力者が決定することもある。それによって社会秩序が保たれ、新たな文化<sup>(5)</sup>が開花することもあるが、異なる価値観の対立によって戦争<sup>(6)</sup>を引き起こすこともある。それが歴史である。

歴史から何を学び、何を学ばないかは個人の意識の問題であるとともに、それに影響を与える社会制度<sup>(7)</sup>や社会構造の問題でもある。「情報コミュニケーション学」とは、ひたすらに情報の重要性を意識するとともに、その情報の制限<sup>(8)</sup>によって生み出された問題や、コミュニケーションの複雑さや危うさについて研究する学問であるといえる。

また、情報がそのまま「歴史」として後世に語り継がれるかどうかも定かではない。私たちが日常的に用いている食器や工芸品<sup>(9)</sup>も、技術の発達と流行の影響を受けた結果、今のかたちになっている。また、普段、何気なく接している活動、たとえばスポーツや文芸<sup>(10)</sup>も、現代社会に生きる私たちが価値づけたものしか残らないのである。その意味においては、誰もが歴史の証人であり、歴史の創造者なのかもしれない。



問 1 下線部(1)「伝達」の記述として最も適切なものを次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① 日本は遣唐使らを通じて中国文化を学ぶなかから、貴族的で仏教的な天平文化を生み出した。また、唐の長安にならって平城京が建設された。
- ② 朝鮮半島では新羅が仏教を保護することによって、首都の金城(慶州)を中心に仏教文化を繁栄させるとともに、唐から身分制度である骨品制を取り入れた。
- ③ チベットではラサを首都とした吐蕃が建国され、中国とインド両国の文化を取り入れるなかから、小乗仏教とボン教を融合させたラマ教が生まれた。
- ④ ベトナム(越南)の地は、秦の始皇帝や漢の武帝が遠征したこともあり、中国と密接な関係を持っていた。唐はサイゴンに大総監府をおき、それは後に安南都護府と改称された。

問 2 下線部(2)「文字」の記述として適切でないものを次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① チベット文字は、インド系の文字で左横書きの表音文字である。これはソンツェン=ガンボが作成させたものである。
- ② 契丹文字は、ウイグル文字と漢字の影響を受けたもので、耶律阿保機が大字、子の耶律迭剌が小字を作ったとされている。
- ③ 西夏文字は、漢字を模して李公麟が作らせたとされるものであり、仏典の翻訳にも使われた。
- ④ 女真文字は、完顔阿骨打の命令によって完顔希尹により大字が作られ、第3代皇帝の熙宗によって小字が作られたとされている。

問 3 下線部(3)「古代」の記述として最も適切なものを次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① 前3千年紀の中国では、黄河下流域を中心に、遼東半島から長江中・下流域の広い範囲に分布する彩文土器を特色とする仰韶文化が栄えた。
- ② 殷墟の発掘によって、甲骨文字を刻んだ亀甲や獣骨が発見されたほか、王墓や宮殿跡が発見されたことによって、殷王朝が河南・山東省の黄河流域に実在していたことが明らかになった。
- ③ 周は陝西省の渭水流域を本拠地として、殷に服属する有力な邑であったが、殷の紂王の時代に国政が混乱したため、周の武王は東進し、その子の文王が紂王の軍を破り、殷は滅ぼされた。
- ④ 西周は都を鎬京におき、王は一族・功臣や土着の首長に封土を与えて諸侯とする見返りに、貢納と軍事貢献を義務とする「封建」と呼ばれる統治制度をとった。この主従関係は契約と自発的意志によって結ばれたヨーロッパのフューダリズムと同じものである。

問 4 下線部(4)「思想」の記述として最も適切なものを次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① 孔子を祖とする儒家の思想では、人と人の間に備わる「兼愛」という道徳的心情によって理想的な社会秩序が可能になると考えられた。
- ② 老子・荘子による道家は「無為自然」を主張し、人為的ないっさいの行為を排除することによって、すべての根源である「道」への合一を求めた。
- ③ 蘇秦・張儀による法家は、強大な権力を持つ君主の定めた法による信賞必罰を基礎とする法治主義を提唱した。
- ④ 公孫竜による農家は、君主も民も平等に農耕すべきであり、物の価格を均一にするべきであるといった一種の平等説をとらえた。

問 5 下線部(5)「新たな文化」に関する記述である、宋の時代の文化として最も適切なものを次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① 北宋の周敦頤は『太極図説』を著し、宇宙哲学の見地から道德の根本原理を説明したことから、やがて同じ北宋の朱熹によって「宋学の祖」として位置づけられた。
- ② 史学の分野では、戦国時代から五代末までの通史を紀伝体で著した司馬光による『資治通鑑』が代表的なものであった。
- ③ 勅命により絵画の制作をつかさどる翰林院画院が宮廷におかれ、牧谿らによる院体画が多彩で写実的である伝統的な画風を生み出しつつ、徽宗らによる形式にとらわれない淡彩で自由な画風を生み出した。
- ④ 唐代の唐三彩は色彩豊かで具象的なものであり、主として副葬品として用いられたのに対して、宋代の青磁や白磁は清新な美しさを持つものであり、諸外国に輸出され、世界的な美術作品とされたものもあった。

問 6 下線部(6)「戦争」の記述として最も適切なものを次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① 2世紀末、インドシナ半島東南部にチャム人が建国したチャンパーは、中国文明に対するインド文明の最前線という役割を果たしていたが、15世紀後半にベトナムの阮朝に主要部を支配され、17世紀には滅亡した。
- ② 匈奴の冒頓単于は、東胡や月氏を破ったほか、劉邦(高祖)と白登山で戦って勝利した。その後、劉邦は匈奴と和親策をとり、両国は対等な関係性を築いた。
- ③ 衛満が前190年頃に建国した衛氏朝鮮は、前漢の武帝によって滅ぼされ、その後は楽浪をはじめとした朝鮮4郡として漢の直轄領となり、朝鮮支配の拠点となるとともに、漢の政治・文化の東方への伝播の拠点となった。
- ④ 4世紀から7世紀にかけて朝鮮では高句麗・百済・新羅の三国が抗争していたが、唐と新羅が手を結び、高句麗を滅ぼした後、日本からの援軍を受けた百済をも滅ぼした。

問 7 下線部(7)「社会制度」の記述として適切でないものを次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① 6世紀末の北周の楊堅は国号を隋とし、均田制と府兵制を継承しながら、税制として租庸調制を確立するほか、九品中正を廃止し、学科試験である「科挙」と呼ばれる官吏登用法を定めた。
- ② 唐の時代でも、隋の科挙制度は受け継がれ、郷試(地方の予備試験)、貢挙(上京してからの礼部の試験)、最後に吏部の行なう採用試験により合否が下された。しかし、科挙によらずに家柄の官位に従って任官できる蔭位の制(門陰の制)も存在していた。
- ③ 宋の時代に入ると、科挙制度は改革された。最終試験として皇帝自らが行なう殿試が加わったことで、その上位合格者は皇帝への忠誠心を持った。
- ④ 元が統治する時代においては、漢族の士大夫を冷遇するばかりでなく、科挙という制度自体も中止された。しかし、中国文化に理解を示す4代仁宗によって、科挙制度が復活し、その制度の平等性が回復された。

問 8 下線部(8)「情報の制限」の記述として適切でないものを次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① 秦の始皇帝は、医薬、占い、農業関係以外の全ての書物を焼いたり、儒者を穴に埋めて殺したりといった、焚書・坑儒を行なうことによって、思想統制を図った。
- ② 後漢の時代には、幼帝が続いたこともあって、宦官らによる専横が行なわれた。それに対抗した儒学を学んだ官僚らは、弾圧されたり公職を追放されたりするといった、党錮の禁が行なわれた。
- ③ 清の雍正帝の時代には、キリスト教の布教が禁止されたが、アヘン戦争でイギリスに敗北し、南京条約を結んだ後は、再びキリスト教の布教が自由化された。
- ④ 清の乾隆帝の統治下では、禁書を行なうことによって、反満・反清的な文章や文字を書いた者を極刑に処したほか、辮髪を強制した。

問 9 下線部(9)「食器や工芸品」の記述として適切でないものを次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① 殷王朝では強大な宗教的権威によって、王は多くの邑を統治した。複雑な文様を持つ青銅器の多くは祭祀用の酒器や食器であった。
- ② ドンソン遺跡から出土した青銅製の銅鼓は権力の象徴として祭りに用いられた。また同様の銅鼓は中国南部から東南アジアの広い地域で見られている。
- ③ イランの美術工芸はササン朝の時代にめざましく発展した。その影響は、東方の南北朝・隋・唐の時代の中国や、飛鳥・奈良時代の日本にまでおよんだ。
- ④ アメリカ古代文明の一つであるインカ文明では、金・銀・青銅器が用いられたほか、車輪として鉄器も用いられた。

問10 下線部(10)「スポーツや文芸」の記述として適切でないものを次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① イギリスで近代化されたポロ競技は、イラン起源のものであったが、中国や朝鮮、日本にも伝えられた。
- ② 清代の皇帝が巡行する内モンゴルの猟場では、巻き狩りやモンゴル相撲などが行なわれていた。そのことは円明園の設計にも携わったとされる、宣教師のカスティリオーネなどが描いた『木蘭園』などによって知ることが出来る。
- ③ 元の支配下にあった中国では、中国固有の文化にそれほどの発展はみられなかったが、宋の時代に引き続いて庶民文化は栄え、元曲(北曲)と呼ばれる勧善懲悪を題材にした『漢宮秋』などを生み出した。
- ④ 魏・呉・蜀による三国時代の英雄や豪傑の活躍を題材とした『三国志演義』は、董其昌によって描かれ、明の時代に刊行され、庶民に受け入れられた。

〔V〕 次の文章A～Jをよく読み、下線部(1)～(4)のうち、適切でないものを一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

A スカンディナヴィア半島では、北欧諸国がノルマン人<sup>(1)</sup>によって国家の体制を整えていったが、1397年にデンマーク王家を統一君主として、ノルウェー・スウェーデン・デンマークによるカルマル同盟が結成された。フィンランド<sup>(2)</sup>は、13世紀以来スウェーデンに併合されていたが、14世紀前半に一部をロシア<sup>(3)</sup>の起源とされるノヴゴロド国に割譲していた。15世紀以降スウェーデンでは独立運動がたびたび起こり、1523年には独立を回復した。それを機にノルウェー<sup>(4)</sup>も独立を果たし、カルマル同盟は解消した。

B 自治権を獲得した中世都市は、相互の利益を守るために都市同盟を結成した。その代表的なものがハンザ同盟である。北海・バルト海貿易に携わる商人<sup>(1)</sup>の中から生まれ、最盛期の14世紀には加盟都市も100を越えた。比較的拘束力は弱く、商業活動の振興を中心として武力を行使することもなかった。盟主となった都市はリューベックであり、この都市はトーマス・マンの『ブッデンブローク家の人々』の舞台ともなっている。オランダやイギリス商人の台頭と共にその力は衰え、最終的にはドイツ三十年戦争で消滅した。<sup>(4)</sup>

C 16世紀にスペイン領となったネーデルラントでは毛織物工業<sup>(1)</sup>が繁栄し、また人文主義者エラスムス<sup>(2)</sup>が出現するなど文化も発展していった。しかし、フェリペ2世がカトリックを強制したのに対し、オラニエ公ウィレムを中心として独立運動が高まった。南部10州が脱落してアラス同盟を結成したのに対抗して、フランドル州<sup>(3)</sup>など北部は、1579年にユトレヒト同盟を結成した。スペイン<sup>(4)</sup>に対抗するイギリスの援助を得て、1609年、事実上の独立を達成した。

D 17世紀後半、ムガル帝国に対抗してヒンドゥー教徒のマラーター王国が建国された。マラーター勢力は一時衰えたものの、イギリスの支持を受けて再び勢力を取り戻し、1708年にはマラーター同盟を結成した。この年の前年には、ムガル帝国の領土を最大にしたアウラングゼーブが亡くなっており、ムガル帝国の力の衰えは、明白となっていた。マラーター同盟はデカン地方を中心に一時支配を広げたものの、インド統一には失敗し、同盟は18世紀半ばに事実上解体した。

E フランスは七年戦争終了後のパリ条約で、カナダとミシシッピ川流域に持っていた植民地をイギリスとスペインに奪われて、アメリカから排除された。独立を宣言したアメリカに対し、フランスは1778年にその独立を承認し、米仏同盟を結んだ。また1780年には、武装中立同盟が結成されて、イギリスの孤立化が図られた。この同盟はデカプリストの乱から国内の関心をそらそうとするエカチェリーナ2世の提唱によるものである。

F オスマン帝国を除く全ヨーロッパ諸国が参加したウィーン会議によって、領土の大幅な変更が行なわれた。これによりフランスも多くの領土を失った。ウィーン体制安定のため1815年に、ロシア皇帝アレクサンドル1世の提唱によって神聖同盟が結成され、さらにそれを強化するためにイギリス・プロイセン・ロシア・オーストリアによる保守的性格を持つ四国同盟も同年結成された。後にフランスも加わって五国同盟となったが、イギリスは神聖同盟には参加せず、また五国同盟からも後に離脱した。

G ナポレオン戦争終結後にイギリスで制定された穀物法に反対して、1839年に反穀物法同盟が結成された。コブデンやブライトによって指導されたこの運動は、マンチェスターを中心とする産業資本の利害を代弁していた。安い穀物を求める労働党からの支援も受け、またアイルランドでのジャガイモの飢饉も重なって、1846年に穀物法は保守党内閣によって廃止となった。これによりイギリスの自由貿易への転換は決定的となった。

H 普仏戦争後、ロシア・オーストリア・ドイツによる三帝同盟やバルカン半島<sup>(1)</sup>の問題でフランスと対立したイタリアとドイツ・オーストリアによる三国同盟によって、フランスは孤立状態に追い込まれていた。しかしドイツが調整しようとしたロシアとオーストリアの関係はうまくいかず三帝同盟は解消され、またロシアとの再保障条約の更新に反対したヴィルヘルム2世がビスマルクを失脚させたのを機に、ドイツとロシアの関係は揺らいだ。1891年に露仏同盟が結成され、これによってフランスの孤立状態は解消された。ロシアはシベリア<sup>(2)</sup>鉄道の資本をフランスから得て、資本主義を発展させることができた。<sup>(3)</sup><sup>(4)</sup>

I オランダ東インド会社の支配下にあったインドネシアは、18世紀末の東インド会社の解散によりオランダの直轄統治下に入った。一時イギリスの支配下に入ったが、1816年には再びオランダの支配下に戻った。オランダは、稲作<sup>(1)</sup>を強要する強制栽培制度を実施するなど過酷な政策を採り、それに対して民族運動が展開した。1911年に結成されたイスラーム同盟は、当初は相互扶助的な性格が強かったが、次第に独立運動を目指すものとなっていった。<sup>(2)</sup>第一次世界大戦後にオランダの弾圧によって衰退するものの、その再編の中からアジア初の共産党であるインドネシア共産党も生まれた。<sup>(3)</sup><sup>(4)</sup>

J 長年にわたってオスマン帝国の支配下にあったバルカン半島では、複雑な民族構成をめぐる諸問題が、トルコの弱体化と共に顕在化した。1912年にはオーストリアに対抗するため、パン＝スラヴ主義<sup>(1)</sup>を掲げてセルビア・モンテネグロ・ブルガリア・ギリシアによってバルカン同盟が結成された。<sup>(2)</sup>サン＝ステファノ条約で完全な独立を得ていたブルガリアは、同盟国同士の戦いとなった第2次バルカン戦争の結果、孤立が決定的となった。<sup>(3)</sup>そのためブルガリアはドイツ・オーストリアに接近して、バルカン情勢はますます緊張をはらんだものとなった。<sup>(4)</sup>



〔VI〕 次の史料(A)と(B)に関する問1～10に答えなさい。

史料(A)

#### 十四カ条

……われわれがこの戦争に参戦したのは、権利の侵害が生じ、それがわれわれに痛切に響き、もしそれを是正し、また世界でその再発のおそれが確実に防止され、保障されない限り、わが国民の生存を耐えがたいものにしたからである。それゆえ、この戦争でわれわれが要求していることは、何もわれわれにのみ関係することばかりではない。……世界の他の人民によって、正義と公正な取り扱いを確保しようと欲しているすべての平和愛好国民にとって、世界が安全なものになることである。……世界平和の計画は、われわれの計画でもある……

第一条 平和条約は、秘密裏に作成されてはならず、公開されなければならない。……外交は常に隠し立てすることなく、公衆の面前で行なわれなければならない。

第二条 平時戦時を問わず、領海外の公海においては、絶対的な航行の自由が確立されなければならない……

第三条 すべての経済的障壁は、できる限り除去されなければならない……

第四条 国家の軍備は、国家の安全に必要とされる最小限度まで縮小されると言う、適当な保障が相互に行なわれなければならない。

第五条 すべての植民地に関する要求は、自由かつ偏見なしに、そして厳格な公正さをもって調整されねばならない……

第六条 ロシア領内からすべての軍隊は撤退しなければならない……

(略)

第十四条 大国であるか小国であるかを問わず、同じように、政治的独立と領土保全の相互的保障を行なう目的のために、広く諸国家の連合組織<sup>(1)</sup>が、特別の規約の下に形成されなければならない。

(略)

このような協約や協定を得るために、われわれは喜んで、それが達成されるまで、戦い、また戦い続けるであろう……

……われわれはドイツの偉大さを妬むものでは決してなく、また、この計画の中にもドイツの偉大さを傷つけるものは何もない……

われわれはドイツの政治制度のいかなる変化、修正をも示唆しようとは考えていない……

……私が概観したこの全計画によって一貫する一つの明らかな原則がある。それは全ての人民および民族に対する正義の原則であり、強者も弱者もお互いに自由と安全との平等の条件の下に生存する権利でもある……

(以下略、なお原文の一部を修正してある。)

## 史料(B)

### 平和に関する布告

10月24日～25日の革命によってつくりだされ、労働者・兵士・農民代表ソヴィエトに立脚する労農政府<sup>(2)</sup>は、すべての交戦諸民族とその政府に対して、公正で民主的な講和についての交渉を即時に開始することを提議する。

……ツァーリ君主制の打倒後にロシアの労働者と農民がもつともきっぱりと……要求してきたもの……は、無併合(すなわち、他国の土地を略奪することも他の諸国民を強制的に統合することもない)、無賠償の即時の講和である。

ロシア政府はこのような講和を即時に締結することをすべての交戦諸国民に提議し、すべての国とすべての国民の人民代表が全権をもつ会議によってこのような講和のすべての条件が最終的に確認されるにいたるまで、いささかのためらいもなくあらゆる断固たる行動をただちにとる用意があることを表明する。

政府が併合または他国の土地の略奪と理解しているのは、民主主義一般、とくに勤労者階級の法意識に従って、弱小民族が同意または希望を正確に、明白に、自由意志で表明していないのに、強大な国家が弱小民族を統合することである……

(略)

政府は秘密外交を廃止し、自らすべての交渉を全人民の前で、完全に公然と行う確固たる意向を表明し、1917年2月から10月25日までに地主と資本家の政府によって確認または締結された秘密条約の、完全な公開にただちに着手する。政府はこれらの条約の全内容を……無条件に即時に無効を宣言する。

(以下略、なお原文の一部を修正してある。)

問 1 史料(A)に関する記述として適切でないものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① ドイツ政府はアメリカ合衆国大統領と休戦交渉に入ったが、ドイツで革命が起こり、新しい共和国政府が、これを基にして連合国と休戦協定を結んだ。
- ② 1919年1月から開かれたパリ講和会議で、これらの原則が講和の基礎になっていた。
- ③ アメリカ合衆国が第一次世界大戦に参戦するにあたって、ウィルソン大統領が宣言したものである。
- ④ アメリカ合衆国は、これによって公開外交を提唱したが、イギリスやフランスは中東などについて秘密協定を結んでいた。

問 2 史料(A)の第四条に関する記述として適切でないものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① ヴェルサイユ条約で、ドイツは軍備を制限され、徴兵制は廃止された。
- ② 1921年～22年に開かれたワシントン会議では、アメリカ合衆国・イギリス・日本などの海軍の主力艦について制限する条約が結ばれた。
- ③ 1928年には、アメリカ合衆国のケロッグ國務長官とフランスのブリアン外相の提唱によって不戦条約が結ばれた。
- ④ 第一次世界大戦後、列強の海軍軍備に関して、主力艦の制限は行われたが、補助艦に関する制限は行なわれなかった。

問 3 史料(A)の下線部(1)に関する記述として適切でないものを次の①～④の中から一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① この組織を提唱したアメリカ合衆国自体が、議会上院の反対で、これに参加しなかった。
- ② 敗戦国であったドイツも、この組織が設立されるのと同時に加盟が認められた。
- ③ 1920年に発足し、本部が置かれたのはスイスのジュネーヴであった。
- ④ 日本は理事会に常任理事国として加盟していた。

問 4 史料(A)に関する記述として適切でないものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① ヴェルサイユ条約はドイツとの講和条約であり、オーストリアとはサン＝ジェルマン条約が、ハンガリーとはトリアノン条約が結ばれるなどして、個別に講和条約が成立した。
- ② パリ講和会議では、アメリカ合衆国のウィルソンだけでなく、イギリスのロイド＝ジョージやフランスのクレマンソーも大きな影響力を持っており、これら三首脳協議が決定的に重要であった。
- ③ 史料(A)の下線部(1)の組織が作られたとき、付属機関として国際労働機関がジュネーヴに、また常設国際司法裁判所もハーグに設置された。
- ④ パリ講和会議では、ドイツの代表団も交渉に参加したことから、最終的にはドイツ側も抗議することなく、ヴェルサイユ条約を受け入れた。

問 5 史料(B)に関する記述として適切でないものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① レーニンやトロツキーらは、武装蜂起によって政府を打倒し、権力を握ったが「土地に関する布告」を出し、農民革命も進めた。
- ② レーニンはロシアでの革命がドイツなど先進資本主義諸国に広がることを期待して、共産主義者の国際組織であるコミンテルンを作った。
- ③ ボリシェヴィキは十月(十一月)革命によって権力を握ると、直ちに一党独裁体制をしいて、他の党派を弾圧した。
- ④ ボリシェヴィキはやがて共産党となり、首都もペトログラードからモスクワに移された。

問 6 史料(B)に関する記述として適切でないものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① この布告以降、ヨーロッパ列強やアメリカ合衆国は全く秘密外交を行なうことができなくなり、議会や世論が外交に大きな影響を与えるようになった。
- ② 第一次世界大戦でロシア軍は敗北を続け、国民の中からも戦争の継続に反対する声が強くなり、このことが二月(三月)革命につながった。
- ③ 十月(十一月)革命の後、列強からの干渉戦争に対応した戦時共産主義が行き詰まると、レーニンは新経済政策を打ち出し、中小企業などの私的営業を認めた。
- ④ 1922年12月、ロシア・ウクライナ・ベラルーシ(白ロシア)・ザカフカースの四つのソヴィエト共和国が連合してソヴィエト社会主義共和国連邦が結成された。

問 7 史料(B)の下線部(2)に関する記述として適切でないものを次の①～④の中から一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① ロシア革命の政治的指導者はレーニンやトロツキーであったが、社会主義国家を建設するという思想はマルクス主義の影響を強く受けている。
- ② 革命によって労農政府を樹立するという考え方とは違って、19世紀末のドイツでは社会民主党のベルンシュタインのように議会主義的改革を重視する修正主義の動きもあった。
- ③ ソヴィエト体制が事実上一党独裁体制になると、政府はチェカ(非常委員会)を設置して反革命運動を取り締まり、1920年には国内の反革命政権は大体制圧された。
- ④ レーニンがスイスから帰国して出した「四月テーゼ」では、まだ革命に慎重であり、ケレンスキーとの協力も考えていた。

問 8 史料(A)および(B)に関する記述として適切でないものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① 第一次世界大戦は、当初予期しなかった長期戦・物量戦になり、各国が国力のすべてを戦争のために動員する総力戦となった。
- ② 第一次世界大戦は参戦した諸国の社会に大きな影響を与え、一般民衆や女性の発言権の増大をもたらすなど大衆民主主義が成立していくことになった。
- ③ 国際的にはヨーロッパ中心の政治や経済のあり方が大きく変容し、アメリカ合衆国とソヴィエト＝ロシアが影響力を持つようになった。
- ④ 日本は、中国におけるドイツ権益の中心であった山東半島の青島を占領するなど、アジア太平洋地域で軍事行動を行なったが、ヨーロッパに陸海軍の部隊を送ることはなかった。

問 9 史料(A)の第六条と史料(B)に関する記述として適切でないものを次の①～④の中から一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① 1918年3月、ソヴィエト政府は自らに不利な条件でドイツなどとブレスト＝リトフスク条約を結び、戦線から離脱した。
- ② ブレスト＝リトフスク条約は、第一次世界大戦の後、ドイツと連合国との休戦協定により破棄された。
- ③ ドイツはブレスト＝リトフスク条約によって、事実上ポーランドやバルト地域を支配下におき、東部戦線の兵力を西部戦線に移動させ最後の大攻勢に出たが失敗した。
- ④ レーニンが社会主義国家の建設を最優先と考え、ブレスト＝リトフスク条約の締結にあたって、自ら全権としてドイツと交渉した。

問10 史料(A)と(B)は、20世紀の歴史に大きな影響を与えたものとして知られているが、これらの史料に示された考えがその後の歴史に与えた影響と思われるものとして、最も適切なものを次の①～④の中から一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① 史料(A)は自由な経済活動に基づく世界観を示し、史料(B)は労働者を中心にする世界観を示しているため、長期的に見て、国際秩序のあり方に関する米ソの考え方の対立をもたらした。それが冷戦の原因の一つになった。
- ② 史料(A)と史料(B)に示された考え方が世界に提示されたにもかかわらず、結局、第二次世界大戦を防ぐことができなかつたところから、第二次世界大戦後には、これらの考え方は、全く顧みられなかつた。
- ③ 史料(A)は史料(B)に対抗するために発表されたものであるが、どちらも反植民地主義の立場を示しており、第一次世界大戦後にイギリスやフランスの植民地帝国を弱体化させるのに大きな影響を与え、史料(A)の考え方は、パリ講和会議でほとんど完全に受け入れられた。
- ④ 史料(A)と史料(B)は、国民が戦争の勝敗に関係なく、自らの国家体制を自由に決めて良いという考え方を示しているが、この考え方は第二次世界大戦の後も続き、ドイツや日本が自発的に民主的改革を進めることにつながった。